



2017年
6月

株主通信

セコム株式会社

第56期決算報告

「あんしんプラットフォーム」構想の実現により、 変わりゆく社会に、変わらぬ安心を提供する

当期の経営成績、「セコムグループ2030年ビジョン」、新サービスとAI/IoTの活用について、社長の中山泰男からご説明させていただきます。



中山 泰男

セコム株式会社 代表取締役社長

当期の経営成績が 過去最高となった要因について

昨年5月の社長就任以降、セコムグループが持続的に成長していくために、「社員満足を原点」とする経営方針を掲げています。

自由闊達な風土のもと、社員満足度の向上を図ることで、一人ひとりが潜在能力を高い次元で発揮できるようになる。これにより、サービス品質が一層向上し、お客様の満足度や社会からの信頼が高まる。その結果、社員の満足度がさらに向上するという「正の循環」を目指しています。

こうした循環が少しずつ浸透してきたことが過去最高の売上、利益を達成した最大の要因で、全社員の努力の賜物です。

今年5月、内外に向けて発表した 「セコムグループ2030年ビジョン」を 策定した背景について

世界を見渡してもエクセレントカンパニーには必ず「ビジョン」があるように、企業が持続的に成長していくためには「ビジョン」が必要です。セコムにも「『社会システム産業』の構築」という壮大な「ビジョン」があり、これは私たちにとって不変のものです。その基盤のもとで、経営環境の変化が激しく、不確実性が増すなか、やや長い目で見た目標を具体的に示したいという想いがありました。そこで、経営幹部、フィールドの若手社員、グループ会社の責任者などから広く率直な意見を聞き、「セコムグループ2030年ビジョン」を策定しました。

「あんしんプラットフォーム」構想について

「セコムグループ2030年ビジョン」で示している「あんしんプラットフォーム」とは、これまでセコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にするパートナーが参加して、セコムと一緒に暮らしや社会に安心を提供する社会インフラのことです。「あんしんプラットフォーム」を通じて提供する安心には次の三つの特徴があります。

1. 「いつでも、どこでも、あんしん。」
～ 時間や空間にとらわれないサービスの提供
2. 「誰にとっても、あんしん。」
～ 一人ひとりのお客様に寄り添った
最適なサービスの提供
3. 「切れ目なく、ずっと、あんしん。」
～ 安心にフォーカスした切れ目のないサービスの提供
このように方向性を示すことで、セコムの社員が「何をやるべきか」がより明確になり、パートナーの方たちは「新サービス」を発想しやすくなると思います。

これまでの“ALL SECOM（セコムグループ総力の結集）”に加え、想いを共にするパートナーを増やすことで「あんしんプラットフォーム」を大きく成長させ、社会とのつながりを数と質ともに強化し、変わりゆく社会に、変わらぬ安心を提供していきます。

新サービスの「セコム・マイドクターウォッチ」とAI/IoTなどの新しい技術の活用について

「セコム・マイドクターウォッチ」は、リストバンド型のウェアラブル端末を使った新サービスで、まもなく提供を開始する予定です。有事における救急対応と、平時における健康管理を組み合わせることで、切れ目のない安心を提供するのが特長で、「あんしんプラットフォーム」によるサービス提供の典型と言えます。

また、近年、注目を集めるAI/IoT^(※)については、セコムが早い時期から研究を進め、強みとしている分野で、「セコムグループ2030年ビジョン」を実現するうえで、活用が必要不可欠と考えています。

そこで、その担い手として社長直轄の「AI/IoT活用推進プロジェクト」を、研究所内にはこのプロジェクト活動を技術面で連携し支援する「AI/IoT・コネクテッド戦略タスクフォース」を6月に同時に発足させました。

さらに、プロジェクトメンバーだけでなく、さまざまな部門が横断的に活用方法を話し合う場として、「AI/IoT活用推進会議」を今後開催していく予定です。

最後に、株主の皆様へ

社会が変わっていくなかで、その変化を捉えて、あるいは変化に先んじて、変わらぬ安心をセコムは提供し続けます。そのために、セコムはこれからも変わり続けてまいります。社会とのつながりを強め、さまざまな社会課題を解決することで、社会と共に成長し続けてまいります。

これからもセコムグループにより一層のご期待を賜りますようお願い申し上げます。

※「AI」：人工知能
「IoT」：Internet of Things（モノのインターネット）の略

暮らしや社会に安心を提供する社会インフラ 「あんしんプラットフォーム」構想

セコムは今年で創立55周年を迎えます。
外部環境が大きく変化し、不確実性の増す今日において、
「社会システム産業」の構築を一層加速するために、
「セコムグループ2030年ビジョン」を策定しました。



「あんしんプラットフォーム」構想の実現により、 変わりゆく社会に、変わらぬ安心を。



このビジョンには、2030年を一つの区切りとして、これからのセコムグループの方向性をより明確に示し、これまで以上に、社員に「誇り」を、お客様に「信頼感」を、そして全てのステークホルダーにセコムの「将来性」を感じていただきたいという思いを込めています。

これまでセコムが培ってきた社会とのつながりをベースに、セコムと想いを共にする産・官・学などのパートナーが参加して、セコムとともに暮らしや社会に安心を提供する社会インフラが「あんしんプラットフォーム」です。

セコムは、「あんしんプラットフォーム」を通して、お客様の多様化する安心ニーズに対し、きめ細やかな切れ目のない安心を提供して、さまざまな社会課題を解決し、社会とともに成長を続けてまいります。

※詳細はセコムのウェブサイトをご覧ください。

セコム あんしんプラットフォーム

広い空間を地上と上空から立体的に見守る「立体セキュリティ」で「東京マラソン2017」の安全な大会運営に貢献



©東京マラソン財団

フィニッシュ地点を上空から見守った「セコム気球」

● 約3万6,000人のランナーの安全を見守る

2月26日(日)に開催された「東京マラソン2017」において、セコムは「セコム気球」など先端技術を駆使した最新のセキュリティシステムを提供し、大会の「安全・安心」な開催・運営を支援しました。

「東京マラソン」は世界6大マラソンで構成されるアボット・ワールドマラソンメジャーズの一つで、日本最大規模のマ



©東京マラソン財団

約3万6,000人の全ランナーが装着した「セキュリティリストバンド」

ラソン大会です。セコムは2015年からオフィシャルパートナーとして協賛し、主要エリアの警備を担っています。

今回の警備では、ランナーの本人確認や入

場者管理に「セキュリティQRコード」が印刷された「セキュリティリストバンド」を新たに導入。さらに、事前の警備計画立案から当日の警備に至る一連のプロセスに、「空間情報」を活用し、広い空間を立体的に隙なく見守る「立体セキュリティ」を提供し、約3万6,000人のランナーの安全を見守りました。

● さまざまな情報を集約・連携させて活用

まず、警備計画立案においては「セコム3Dセキュリティプランニング」を活用。高精度な3次元立体地図にもとづく上空からの俯瞰映像などのシミュレーションによりリスクを把握し、最適な警備計画の立案をサポートしました。

警備実施においては、フィニッシュ地点を上空から見守る「セコム気球」、地上の「仮設監視カメラ」「ウェアラブルカメラ」「セコム・ドローン検知システム」など、さまざま

な情報を警備本部に集約。画像認識をはじめとするAIも活用し、警備本部と現地の常駐警備員・関係者が連携して、「安全・安心」な大会運営を支えました。



©東京マラソン財団

胸にウェアラブルカメラを装着した常駐警備員がコース沿道を警備

次世代移動通信システム「5G」の 技術実証でKDDIと提携

セコムは2月、次世代移動通信システム「5G」を活用した、高度なセキュリティシステムの実現に向けた実証実験を、KDDI(株)と共同で推進することを発表しました。

そして5月には、その第1弾として、5Gによるウェアラブルカメラと監視カメラの画像中継実験を共同で実施しました。

セコムは、これまでも上空約100メートルから監視する「セコム飛行船」、ウェアラブルカメラを装着した警備員による巡回

警備、高精度な3次元立体地図による「セコム3Dセキュリティプランニング」を国際会議や大規模イベントへ提供し、「安全・安心」な開催に貢献してきました。

今後は、5Gで実現する「高速・大容量、低遅延、多接続」といった特長を活かし、映像を使ったセキュリティサービスの飛躍的な品質向上に加えて、災害発生時の情報収集やさまざまな被災地支援活動を想定した実証実験なども実施していきます。

また、より「安全・安心」な社会の実現に向けて、5Gの特長を活かした新たなサービスの創出を推進していきます。



多くの報道関係者が出席した5Gの技術実証に関するセコムとKDDIの共同記者発表会

自律型飛行監視ロボット「セコムドローン」を 活用した「巡回監視サービス」の実証実験を開始

セコムは4月、代表企業として参画するPFI刑務所「美祢社会復帰促進センター」(山口県美祢市)で、民間防犯用の自律型飛行監視ロボット「セコムドローン」を使った新サービス「巡回監視サービス」の実証実験を開始しました。

本サービスは、主に人による巡回警備を行っている比較的規模の大きな施設向けに提供

するものです。あらかじめ決めた時刻になると、あるいはお客様の警備室などにあるドローン監視卓から遠隔で「セコムドローン」を発進させると、事前に設定した経路(速度/高度/向き)で敷地内を自律飛行し、ドローンに搭載されたカメラからのライブ映像を監視卓で確認することができます。

これにより、屋上などの危険な箇所の監視が容易になり、また、上空から撮影するため、地上の固定監視カメラのみの場合と比べて死角が少なく、より高度なセキュリティを実現することができます。さらには、巡回の一部を担うことで、巡回監視を行う常駐警備員の負担軽減も可能になります。

セコムは、長年培ってきた画像技術や先端技術を組み合わせ、画期的なサービスをこれからも創出していきます。



事前に設定した経路で敷地内を自律飛行し巡回監視する「セコムドローン」

日本初、リストバンド型の健康管理・救急対応サービス「セコム・マイドクターウォッチ」を発表

セコムは昨年12月、ホームセキュリティとヘルスケアを融合した新サービス「セコム・マイドクターウォッチ」を発表。今年の夏から正式にサービス提供を開始する予定です。



日常の健康管理から万が一の際の救急対応まで一体で提供

本サービスは、日本初の救急通報システム「マイドクター」、携帯電話・GPS機能・救急通報機能を備えた高齢者救急時対応サービス「セコム・マイドクタープラス」といったマイドクターシリーズの機能をさらに発展させたものです。「セコム・ホームセキュリティ」のオプションサービスとして、リストバンド型ウェアラブル端末を使い、健康管理サービスと救急対応サービスを一体にして提供します。

健康管理サービスは、歩数や消費カロリーといった活動量を計測し、日ごろの健康管理に役立てていただくものです。また、救急対応サービスでは、「救急通報」や「転倒検知」、「ライフ監視」といった機能で日常生活の不安に対応し、異常発生時には、全国約2,800カ所の緊急発進拠点からセコムの緊急対応員が駆け付け、必要に応じて救急車の手配を行います。

「超高齢社会」を迎え、高齢者世帯の不安や健康増進への意識が高まるなか、セコムでは本サービスを通して、あらゆる方の「安全・安心・快適・便利」な暮らしの実現を目指していきます。

高齢の親御さんの不安やお困りごとの解決をサポート「セコム親御さん安心パッケージ」を販売開始

セコムは4月、高齢の親御さんに関する日々の不安やお困りごとの解決をサポートする「セコム親御さん安心パッケージ」を販売開始しました。

本サービスは、「遠隔地で離れて暮らす親が心配」「親と同居しているけれど日中は仕事で不在にするため心配」など、従業員が抱える不安やお困りごとを解決するための福利厚生サービスとして企業・団体を通じて従業員にご利用いただく、高齢の親御さんの見守りパッケージサービスです。

セキュリティ・防災・メディカル・保険などセコムグループの各事業が提供するサービスをパッケージ化したもので、離れて暮らす高齢の親御さんを持つご家族の不安やお困りごとに応じて、「セコム・ホームセキュリティ」「セコム高齢者見守りサービス」「訪問看護／介護サービス」「生活支援サービス」などから、ニーズにあった最適なサービスを選択できます。

サービス提供にあたってはセコムが総合窓口となっており、さまざまな不安やお困りごとに対応いたします。

今後もセコムでは、グループの力を結集した独自のサービスの提供に努め、さまざまな社会課題の解決に取り組んでいきます。



高齢の親御さんの不安やお困りごとの解決をサポートする「セコム親御さん安心パッケージ」

中国のホームセキュリティ市場開拓に向け ハイアールと戦略的パートナーシップを締結

セコムは5月、中国・青島を本拠地とする海爾集団（以下、ハイアール）と、中国のホームセキュリティ市場開拓の戦略的パートナーシップを結びました。

セコムは1992年に中国へ進出し、現在は上海・北京・大連などの沿岸部から、成都・西安などの内陸部まで25都市に拠点をもち、中国最大のセキュリティネットワークを築いています。



一方、ハイアールはハイアールグループの本社で行われた調印式

ルは、白物家電を中心に世界165カ国以上で販売を行い、近年は、白物家電、AV機器、エアコンなどの住居内の各機器を集中制御する「スマートホーム・システム」に力を入れ、中国の高級マンション・住宅市場を中心に年間6~7万世帯へ導入しています。

今回の戦略的パートナーシップにより、セコムは長年培ったノウハウを活かした高品質な「セキュリティサービス」を、ハイアールは高級マンション・住宅市場におけるプレゼンスと営業力をそれぞれ提供し、両社協力して商品企画、商品開発、販売企画を進めていきます。

セコムは今後導入される「スマートホーム・システム」、および既に市場に導入されている数十万世帯の「スマートホーム・システム」へのセキュリティサービス導入を進めるとともに、中国全土のセキュリティ市場拡大と一層の強化を図ります。

北アイルランドの「スキャンアラーム社」を買収 英国のセキュリティサービス提供体制を強化

セコムは3月、英国にあるグループ会社、セコムPLCを通じて、同国北アイルランドに本社を持つセキュリティ会社「スキャンアラームLtd.」（以下、スキャンAL社）の全株式を取得しました。

セコムPLCは、英国のセキュリティ業界で第3位のセキュリティ会社で、英国全土にオンライン・セキュリティシステムをはじめとするサービスを提供。2007年には、英国セキュリティ業界のオスカーとも言われる「セキュリティ・エクセレンス・アワード」の「最優秀顧客サービス賞」を受賞するなど高い評価を得ています。

このたびセコムグループ入りしたスキャンAL社は、北アイルランドでセキュリティシステムの販売・設置・保守を行うセキュリティ会社です。これまでセコムPLCでは、北アイルランドでのセキュリティサービスは提携会社に委託していましたが、今後は、セコムPLCで直接サービスを提供する体制を構築します。また、スキャンAL社が他社に委託していた監視サービス業務は、今後セコムPLCが自社のコントロールセンターで引き受けます。

これによって、英国全土でセキュリティサービスを直接提供できる体制が整うため、英国で全国展開する企業への営業も一層強化し、さらなる業容拡大を目指します。



英国のセコムPLCのコントロールセンター

auのジュニアスマートフォン「miraie f」に「ココセコム for au」の提供を開始

セコムは1月、KDDI(株)から発売されたauの新しいジュニアスマートフォン「miraie f (ミライエ フォルテ)」に、「ココセコム」サービスの一つとして「ココセコム for au」の提供を開始しました。

2001年4月に提供開始した位置情報提供サービス「ココセコム」は、GPSと携帯電話基地局を使った位置検索と、セコムの緊急対応員による現場急行サービスを組み合わせた「持ち歩けるセキュリティ専用端末」です。

子どもや高齢者の見守り、女性やVIPの防犯対策、車や物の盗難時の対応として、位置情報の提供のほか、万が一の際にはセコムへの通報により安全のプロが現場急行するサービスを提供しています。

これまでセコムでは、「ココセコム」を活用した子どもの見守りサービスを、「ココセコム」専用端末のほか、KDDIのau携帯電話やauキッズケータイ「mamorino (マモリーノ)」などに対応させ、提供してきました。

今回、「miraie f」に対応したことで、携帯電話からスマートフォンへの切り替えを検討される年齢のお子さままで対象が広がりました。

今後もパートナー企業との協業を通じ、子どもをはじめ社会のあらゆる生活者の皆さまの「安全・安心」に、より一層、貢献していきます。



auジュニアスマートフォン「miraie f」

セコム、セコムトラストシステムズ、ルネサスが安全なIoTセキュリティ基盤開発で協業開始

4月、セコム、セコムトラストシステムズ(株)とルネサスエレクトロニクス(株)の3社は、IoTセキュリティの基盤開発で協業を開始しました。

近年、各種センサー、カメラをはじめとしたさまざまな機器をインターネットに接続して情報を収集・活用するIoT技術が急速に進歩しています。

その一方、セキュリティが脆弱なIoT機器を乗っ取り、それを踏み台に企業などのサーバーに攻撃を仕掛けるなど、IoT機器を狙ったサイバー攻撃が昨年国内でも急増しており、事業者が信頼されるサービスを提供するためには、IoT機器の信頼性をいかに担保するかが課題となっています。

今回の協業により、3社はIoT機器について、半導体製造からサービス提供までのすべての期間における電



「信頼できるIoT機器」に紐づく電子証明書や電子鍵をデータセンターで一元管理

子証明書、暗号技術で用いる電子鍵などの機密情報の適切な管理、配信等の機能を備えたシステムの構築および運用方法を検討し、IoT技術を利用したサービス提供、IoT機器同士の連携を安全に行うためのセキュリティ基盤の開発を目指します。

IoT機器の本格的なセキュリティ対策が求められるなか、3社は協力してあらゆる機器がつながる「快適・便利」な世の中に欠かすことのできない「安全・安心」を提供していきます。

「セコム災害支援プロジェクト」を始動 熊本地震被災地の仮設住宅にAED 25台を提供

セコムは昨年12月、特定非営利活動法人全国災害ボランティア支援団体ネットワークと協力し、熊本県における熊本地震被災地の仮設住宅にAED 25台を提供しました。

さらに、大地震や大規模洪水などの広域災害が発生した際、長期の被災地支援を行うとともに、平時からの地域防災力の向上を目指す「セコム災害支援プロジェクト」を開始しました。

本プロジェクトにより、発災直後には自治体などの関係機関と連携し、ご契約先のみならず地域の方に対しても支援活動を行います。

また、災害の影響が長期にわたった場合は、今回のAED提供のような被災地の実情に寄り添った息の長い支援を行います。

さらに、平時からの災害への備えとして、地域防災の要となる消防団活動に積極的に協力していくため、消防団に入団する社員へのバックアップを始めており、すでに136名（2017年3月末現在）の社員が消防団に所属し活動しています。

今後も、これまでの災害時の経験やノウハウを最大限に活用し、被災地に対して「安全・安心」を提供できるよう取り組んでいきます。



熊本地震被災地の
仮設住宅にAEDを提供

「ジャパン・レジリエンス・アワード」を受賞 災害・BCPに対する取り組みに高評価

セコムは3月、一般社団法人レジリエンスジャパン推進協議会が主催する「ジャパン・レジリエンス・アワード（強靱化大賞）2017」において、「企業・産業部門」で「優秀賞」を受賞しました。



3年連続の受賞となった
「ジャパン・レジリエンス・アワード」

「ジャパン・レジリエンス・アワード」は、次世代に向けた“強靱化（レジリエンス）社会”を構築するために全国各地で展開されているさまざまな“強靱化”に関する先進的な活動を評価し、表彰する制度です。

全国の自治体・企業・教育機関・団体からのエントリーを「企業・産業部門」「地方自治体部門」「教育機関部門」「NPO・市民活動部門」の4部門で募り、グランプリ、金賞、最優秀賞、優秀賞、優良賞などが選ばれます。

今回の表彰は、提携医療機関のBCP（事業継続計画）を策定して防災体制を強化し、災害時に早期に活動を再開できる体制を構築していることや、医師や看護師等で組成される「セコム災害派遣医療チーム（SDMAT^{エスディーマット}：Secom Disaster Medical Assistance Team）」による大規模災害発生地への医療サービス支援などの実績が高い評価を受けたもので、2015年の「優秀賞」、2016年の「最優秀賞」に続き、3年連続の受賞となりました（いずれも「企業・産業部門」）。

セコムはこれからもグループの総力を結集し、多彩な取り組みで「国土強靱化」に貢献していきます。

社員の健康増進に積極的に取り組み 「健康経営優良法人2017～ホワイト500～」に認定

セコムは2月、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人認定制度」において、「健康経営優良法人2017～ホワイト500～」に認定されました。



大企業部門で235社、
中小企業部門で95社が認定された

「健康経営優良法人認定制度」は、企業の健康経営に関し、優れた取り組みを実践している企業を顕彰する制度として2016年度に開始され、今回が初の認定になります。

2020年までに500社の認定を目指しており、セコムでは以下の社内での取り組みが評価され、今回の認定となりました。

1. 社員の健康維持・改善のため、全社員参加型禁煙支援プログラム「セコム禁煙ナビ」を実施
2. 眠気や集中力低下を引き起こすほか、高血圧、糖尿病、心筋梗塞、脳卒中などの合併症を引き起こすリスクとなる睡眠時無呼吸症候群（SAS）の検査を実施
3. メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）を防止するための特定保健指導を対象となった社員の9割以上に実施し、大きく改善

セコムでは、これからも働きやすい環境づくり、社員の健康増進に積極的に取り組んでいきます。

「第20回環境コミュニケーション大賞」で セコムのCSRレポートが優良賞を受賞

2月、環境省と一般財団法人地球・人間環境フォーラムが主催する「第20回環境コミュニケーション大賞」が発表され、セコムのCSR（企業の社会的責任）への考え方、取り組みをまとめた「CSRレポート2016」が環境報告書部門で「優良賞（第20回環境コミュニケーション大賞審査委員長賞）」を受賞しました。

この表彰は、優れた環境報告書や環境活動レポート等を表彰することにより、事業者などの環境コミュニケーションへの取り組み促進と、その質の向上を図ることを目的とする表彰制度です。

セコムでは、CSRを事業を通じて社会課題を解決する「戦略的CSR」と、社会から信頼される企業として取り組む「基盤的CSR」に整理しています。「基盤的CSR」においては、地球温暖化防止や資源の有効利用などの環境保全活動にも積極的に取り組み、CSRレポートで紹介しています。

「CSRレポート」は、セコムのウェブサイトで公開していますので、ぜひご覧ください。



セコムの社会・環境課題への取り組みをまとめた「CSRレポート2016」

大規模イベントの警備計画立案で活躍、 「セコム3Dセキュリティプランニング」

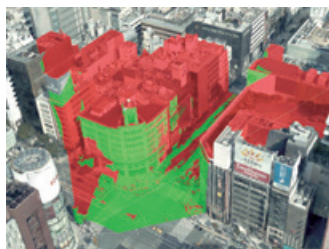
時代や社会の変化を先読みして、社会に必要なサービスを創出するセコムグループ。
今回は、先端技術の研究を行うIS研究所と、地理情報サービス事業を担う(株)パスコの
技術力が融合した「セコム3Dセキュリティプランニング」をご紹介します。

● サービスの特長を教えてください。

櫻井：大規模イベントなどの警備計画の立案では、担当者が現地に何度も足を運ぶ必要があり、時間と労力がかかっていました。しかし、このシステムがあれば、警備エリアを3次元立体地図で再現できるため、現地視察前に現場の状況把握やリスクの予測をしたり、監視カメラの監視範囲や警備員からの視界をシミュレーションできます。

これにより、その後の現地視察を大幅に効率化することができ、さらに多面的・立体的なリスク分析により、高度なセキュリティを実現することもできます。

また、イベント開催時も、緊急事態が発生した場合には、その場所を映している監視カメラの特定や最も早く到達可能な警備員の検索を容易に行うことができます。



「セコム3Dセキュリティプランニング」のシミュレーション画面

● 3次元立体地図の作成をパスコが担当していますが、開発にあたって注力した点を教えてください。

堺：セキュリティというミスの許されない用途で使用さ



セコム(株) IS研究所
最適計画グループ
サブグループリーダー
櫻井利彦

れるため、精度には特にこだわっており、地図上のどの地点でも緯度・経度・高度が把握できるほか、あらゆる視点から実際の見え方を再現しています。また、警備エリアに行ったことがない人でも実際の現場を正確にイメージできるよう、警備エリアの環境をリアルに再現することにも注力しました。

計測にあたっては、航空機や計測用特殊車両など複数の方法を組み合わせ、上空や地上から死角なくデータ収集を行うことで、精度と見た目のリアルさを両立させました。

こうした技術でパスコは業界のトップであり、今回のシステムはまさにセコムとパスコの強みが融合し、シナジー効果が発揮されたものと言えます。

● 今後の取り組みについて教えてください。

櫻井：IoT機器やセコムのセンサー、監視カメラ、ウェアラブルカメラなどの情報を取り込めるようにし、イベント警備以外のさまざまなサービスの現場でも役立てるようしていきたいです。



(株)パスコ 新空間技術部
課長 堺 浩一

イベント警備の経験を仲間と共有し 警備サービスのさらなる品質向上を目指す

セコムのセキュリティサービスは、安全のプロの力がその質を決めます。

今回は、ご契約先施設の安全管理や大規模イベントの「安全・安心」な運営を担う
常駐警備員をご紹介します。



首都常駐統轄本部
副司令 有吉 亮

● 常駐警備員の役割とは何でしょうか。

ご契約施設に常駐し、巡回や立哨^{りっしょう}、出入管理などの業務を通して、事故や事案の発生を未然に防止することです。

また、緊急時におけるお客様の安全確保も重要な役割であり、あらゆる事態に対応できるよう「想定外をつくらない」ということを全隊員が強く意識して、日頃からさまざまな訓練を行っています。

● 業務ではどのようなことを心掛けていますか？



時々刻々と変化する状況に合わせて
会場や沿道の警戒にあたる

セキュリティを提供する会社として、「安全・安心」を提供するのはもちろん、そこに「快適・便利」など、付加価値を付けてこそセコムのサービスだと考えています。

そのため普段の業務でも、警戒監視はもちろん、施設で働く方々が気持ちよく過ごせるよう、表情や挨拶、立ち居振る舞いなどにも気を配るようにしています。

● スポーツイベントなどの警備では どのようなことに注意して業務にあたりましたか？

東京マラソンや箱根駅伝では警備責任者として、時々刻々と変化する状況に合わせて、会場や沿道の警戒にあたり、イベントの阻害要因を未然に排除するとともに、緊急事態の発生時にいち早く対応できる体制で、安全確保に努めました。

その一方で、応援に来られる方の多くが“楽しむ”ことを目的にされていますので、案内業務など人と接するときは笑顔を忘れず、観客の方々に警備を必要以上に意識させないように心掛けました。

● 今後の目標を教えてください。

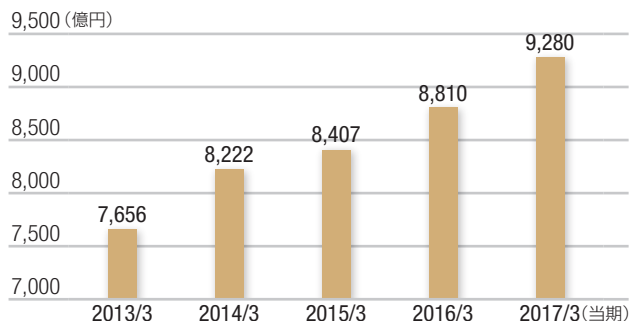
2020年に向け、イベント警備に参加する機会がますます増えていくと思いますので、そこで得た経験を所属する派遣隊の仲間をはじめ全社で共有し、普段の業務にも活かすことで、サービス品質をさらに向上させていきます。

また、先端技術を駆使したセコムのさまざまなセキュリティシステムと私たち常駐警備員の力を融合させた、セコムにしかできない高度なセキュリティサービスを今後も提供していきたいです。

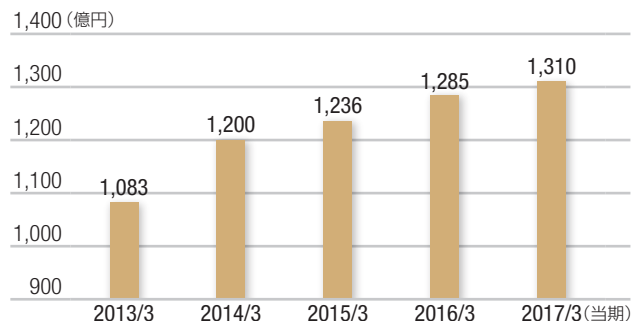
Review

連結決算 業績ハイライト

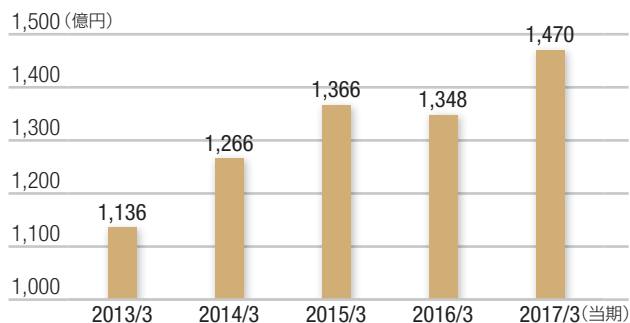
● 売上高



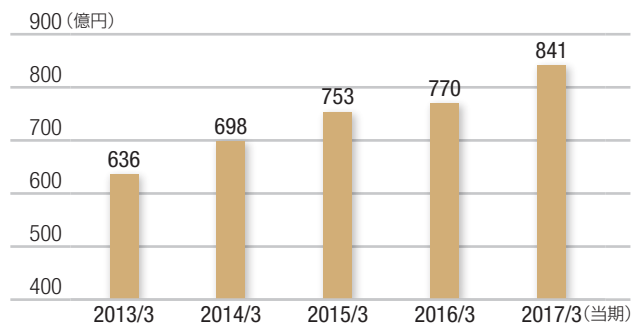
● 営業利益



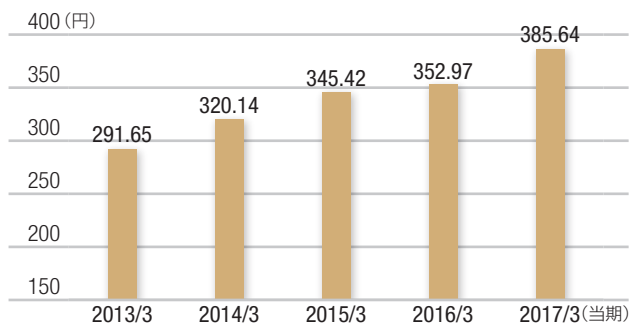
● 経常利益



● 親会社株主に帰属する当期純利益

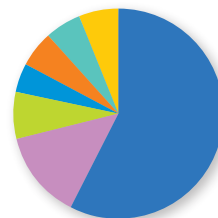


● 1株当たり当期純利益



● 事業別売上高内訳 2017/3 (当期)

	(億円)	
● セキュリティサービス事業	5,342	57.6%
● 防災事業	1,262	13.6%
● メディカルサービス事業	668	7.2%
● 保険事業	419	4.5%
● 地理情報サービス事業	516	5.5%
● 情報通信事業	498	5.4%
● 不動産・その他の事業	573	6.2%



連結貸借対照表 (要旨) 2017年3月31日現在 (単位: 億円) *注: 金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部	流動資産	7,618
	現金及び預金	3,023
	現金護送業務用現金及び預金	1,306
	受取手形及び売掛金	1,198
	未収契約料	330
	有価証券	293
	リース債権及びリース投資資産	439
	たな卸資産	341
	販売用不動産	275
	繰延税金資産	140
	短期貸付金	49
	その他	219
	固定資産	8,883
	有形固定資産	3,765
	建物及び構築物	1,502
	警報機器及び設備	695
	土地	1,168
	その他	398
	無形固定資産	1,121
	投資その他の資産	3,996
	投資有価証券	2,809
長期貸付金	384	
退職給付に係る資産	352	
繰延税金資産	95	
その他	354	
繰延資産	0	
資産合計	16,501	

負債の部	流動負債	3,539	
	支払手形及び買掛金	446	
	短期借入金	449	
	一年以内償還予定社債	14	
	未払金	374	
	未払法人税等	275	
	現金護送業務用預り金	1,078	
	前受契約料	305	
	その他	594	
	固定負債	2,829	
	社債	70	
	長期借入金	141	
	預り保証金	339	
	退職給付に係る負債	224	
	保険契約準備金	1,661	
	その他	393	
	負債合計	6,369	
	純資産の部	株主資本	8,704
		資本金	663
		資本剰余金	802
		利益剰余金	7,974
自己株式		△737	
その他の包括利益累計額		215	
非支配株主持分		1,212	
純資産合計		10,132	
負債純資産合計		16,501	

連結損益計算書（要旨）

〈単位：億円〉 ＊注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	当期 (2016年4月1日から 2017年3月31日まで)	前期 (2015年4月1日から 2016年3月31日まで)	増減率
売上高	9,280	8,810	5.3%
売上原価	6,214	5,865	
売上総利益	3,066	2,944	4.1%
販売費及び一般管理費	1,756	1,659	
営業利益	1,310	1,285	1.9%
営業外収益	223	113	
営業外費用	63	51	
経常利益	1,470	1,348	9.1%
特別利益	5	15	
特別損失	56	150	
税金等調整前当期純利益	1,418	1,214	16.8%
法人税、住民税及び事業税	433	391	
法人税等調整額	23	△5	
当期純利益	961	827	16.2%
非支配株主に帰属する当期純利益	119	57	
親会社株主に帰属する当期純利益	841	770	9.3%

● 営業の概況（連結）

当連結会計年度の日本経済は、個人消費には足踏みがみられるものの、各種政策の効果などにより、企業収益や雇用情勢が改善するなど、緩やかな回復基調で推移しました。一方、中国をはじめとする新興国の経済、英国のEU離脱、米国の経済・金融政策の動向などによる不確実性や、金融市場の変動の影響など、留意が必要な状況が続きました。

このような状況の中で、「安全・安心・快適・便利」に対する社会的ニーズはますます多様化・高度化しており、セコムグループは、「いつでも、どこでも、誰もが安全・安心に暮らせる社会」を実現する「社会システム産業」の構築を目指し、お客様のニーズに合致した、質の高いサービス・商品を提供することに努めました。さらに、今後の日本の社会を見据えて、「セキュリティ」をベースに「超高齢社会」、「災害・BCP（事業継続計画）・環境」といったキーワードを切り口として、“ALL SECOM”により新たなサービスを創出する取り組みを推進しました。

これらの結果、当連結会計年度における売上高は9,280億円（前期比5.3%増加）となり、営業利益は1,310億円（前期比1.9%増加）となりました。経常利益は1,470億円（前期比9.1%増加）、親会社株主に帰属する当期純利益は841億円（前期比9.3%増加）となりました。なお、売上高、営業利益、経常利益および親会社株主に帰属する当期純利益はいずれも過去最高を達成することができました。

〈参考〉 ● 連結子会社数 176社
● 持分法適用関連会社数 21社
● 1株当たり当期純利益 385円64銭

連結株主資本等変動計算書（要旨）

(2016年4月1日から2017年3月31日まで)

〈単位：億円〉 ＊注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

	株主資本					その他の 包括利益 累計額	非支配 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計			
当連結会計年度期首残高	663	803	7,433	△ 737	8,163	169	1,098	9,431
会計方針の変更による累積的影響額			5		5		1	6
会計方針の変更を反映した当連結会計年度期首残高	663	803	7,438	△ 737	8,168	169	1,099	9,437
連結会計 年度中の 変動額	剰余金の配当		△ 305		△ 305			△ 305
	親会社株主に帰属する当期純利益		841		841			841
	自己株式の取得				△ 0	△ 0		△ 0
	自己株式の処分		0		0	0		0
	非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		△ 0			△ 0		
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）						46	112	159
連結会計年度中の変動額合計	-	△ 0	536	△ 0	535	46	112	694
当連結会計年度末残高	663	802	7,974	△ 737	8,704	215	1,212	10,132

貸借対照表（単体・要旨）

2017年3月31日現在

〈単位：億円〉

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

資産の部	流動資産	1,983
	現金及び預金	873
	現金護送業務用現金及び預金	378
	未収契約料	164
	売掛金	106
	たな卸資産	70
	短期貸付金	275
	その他	114
	固定資産	6,524
	有形固定資産	1,105
建物	162	
警報機器及び設備	659	
土地	219	
その他	63	
無形固定資産	65	
投資その他の資産	5,353	
投資有価証券	230	
関係会社株式・出資金	3,260	
長期貸付金	1,347	
長期前払費用	208	
前払年金費用	216	
その他	88	
資産合計	8,508	

負債の部

流動負債	1,090
買掛金	36
短期借入金	227
未払金	184
未払法人税等	143
現金護送業務用預り金	151
前受契約料	206
その他	140
固定負債	285
預り保証金	168
退職給付引当金	25
その他	92
負債合計	1,375

純資産の部

株主資本	7,066
資本金	663
資本剰余金	830
利益剰余金	6,309
自己株式	△737
評価・換算差額等	66
その他有価証券評価差額金	66
純資産合計	7,132
負債純資産合計	8,508

損益計算書（単体・要旨）

2016年4月1日から2017年3月31日まで

〈単位：億円〉

*注：金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

売上高	3,824
売上原価	2,272
売上総利益	1,552
販売費及び一般管理費	789
営業利益	762
営業外収益	133
営業外費用	31
経常利益	865
特別利益	6
特別損失	1
税引前当期純利益	870
法人税、住民税及び事業税	238
法人税等調整額	△0
当期純利益	632

〈参考〉

- 1株当たり当期純利益 289円84銭

Profile

● 会社概要

セコム株式会社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-5-1

Tel: 03-5775-8100

Fax: 03-5775-8902

● 資本金 66,377百万円

● 社員数(グループ総数)

58,596名(2017年3月31日現在)

● 事業内容

1962年、日本初の警備保障会社として創立。

1966年に日本で初めて開発したオンラインによる安全システムは、今では家庭や店舗、オフィスビル、金融機関、大規模商業施設などさまざまな施設に普及しています。

2001年には、移動する人物・車両向けの新たなセキュリティサービスを開始。そのほか、常駐警備サービスや現金護送サービスの提供、各種安全商品などの販売も行い、社会に「安全・安心」を提供しています。

今日、セコムグループは、社会にとって「安全・安心・快適・便利」なサービスを新しい社会システムとして提供する「社会システム産業」の構築を目指し、セキュリティに加え、防災、メディカル、保険、地理情報サービス、情報通信、不動産の7つの事業を展開しています。

取締役(2017年6月27日現在)

取締役(最高顧問)	飯田 亮
代表取締役社長	中山泰男
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	中山潤三
常務取締役	尾関一郎
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司
取締役(社外)	廣瀬篁治*
取締役(社外)	河野博文*
取締役(社外)	渡邊 元*

監査役(2017年6月27日現在)

監査役(常勤)	伊東孝之
監査役(常勤)	小松良平
監査役(社外)	加藤秀樹*
監査役(社外)	安田 信*
監査役(社外)	横溝雅夫*

*印の6名を独立役員として東京証券取引所に届け出ております。

執行体制(2017年6月27日現在)

● 取締役

代表取締役社長	中山泰男
専務取締役	吉田保幸
常務取締役	中山潤三
常務取締役	尾関一郎
常務取締役	布施達朗
取締役	泉田達也
取締役	栗原達司

● 執行役員

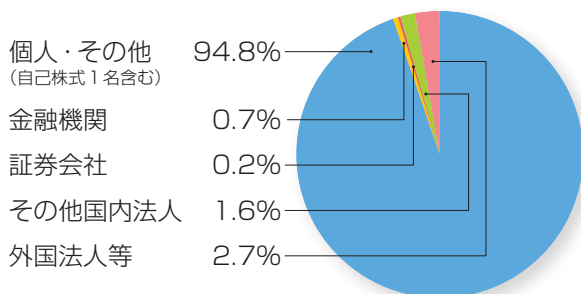
常務執行役員	古川 顕一
常務執行役員	竹田正弘
常務執行役員	吉村輝壽
常務執行役員	森下秀生
常務執行役員	水野都飽
常務執行役員	石村昇吉
常務執行役員	新井啓太郎
執行役員	杉本陽一
執行役員	福満純幸
執行役員	進藤健輔
執行役員	桑原靖文
執行役員	福岡規行
執行役員	赤木 猛
執行役員	佐藤貞宏
執行役員	上田 理
執行役員	山中善紀
執行役員	長尾誠也
執行役員	植松則行
執行役員	永井 修
執行役員	小松 淳
執行役員	御供和弘
執行役員	千田岳彦
執行役員	中田貴士

Information

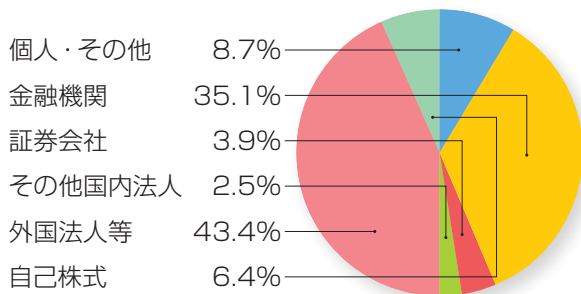
● 株式の状況 (2017年3月31日現在)

1. 発行可能株式総数 900,000,000株
2. 発行済株式の総数 233,288,717株
3. 単元株式数 100株
4. 株主数 25,200名
5. 所有者別状況

● 株主数比率



● 株式数比率



● 株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
- 株主優待制度 毎年3月31日現在における当社株式100株以上保有の株主様に、当社グループで利用可能な優待券を贈呈。
- 上場証券取引所 東京証券取引所
- 証券コード 9735
- 公告方法 電子公告
<https://www.secom.co.jp/koukoku/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
- 株主名簿管理人 特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

● 株式に関する各種手続きについて

- 証券会社に口座がある株主様は… 口座がある証券会社へお問い合わせください。
- 特別口座に記録されている株式の株主様は… 下記の特別口座管理機関 三菱UFJ信託銀行(株)へお問い合わせください。
- 未払い配当金のお支払いに関するお問い合わせは… 下記の株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行(株)で承ります。

株主名簿管理人・特別口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081
東京都江東区東砂7丁目10番11号

☎ 0120-232-711

[平日9:00~17:00]

株式お手続き用紙のご請求

☎ 0120-244-479 [音声] [自動応答]

● インターネットからのダウンロード

<http://www.tr.mufj.jp/daikou/>

信頼される安心を、社会へ。

SECOM

離れて暮らす親を
見てくれる人がいる。

(正直、ほっとした)



「セコム・ホームセキュリティ」は、防犯や火災監視だけでなく

あなたの大切な親御さんも見守ります。

電話相談

健康に関することなど、24時間
セコムの看護師に相談できる。

救急通報 (オプション)

急病時に専用端末を握れば、
すぐにセコムが駆けつける。

お元気確認 (オプション)

セコムがお電話や訪問で定期
的にご様子を確認する。

お気軽にお電話ください。パンフレットを無料でお届けします!



0120-025756

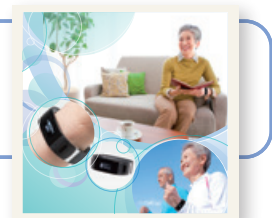
24時間
年中無休

セコム株式会社

表紙写真のご説明

セコム・
マイドクター
ウォッチ

「セコム・ホームセキュリティ」のオプションとして、健康管理・救急対応サービスを提供するリストバンド型ウェアラブル端末。活動量を計測し、「健康アドバイス」を行うほか、「救急通報」「転倒検知」「ライフ監視」といった機能で日常生活の不安に対応。今年の夏にサービス提供を開始予定です。



本誌は環境に配慮し、FSC® 認証紙および植物性インキを使用しています。

セコム コーポレート広報部 757-17-06-277

株主通信 (No.130) 2017年6月発行 発行/セコム株式会社 東京都渋谷区神宮前1-5-1 TEL:03-5500-0001 FAX:03-5575-8100 電話:03-5575-8100